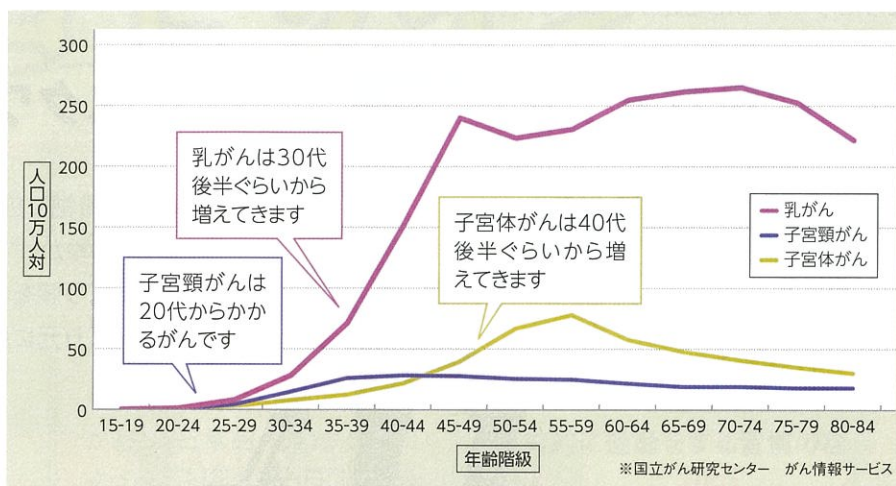


■働き盛り世代の女性は男性よりがんにかかりやすい

がんというとおおむね40歳代以降に増え始め、高齢になるほど増えていくイメージがありますが、女性特有のがんである子宮頸がんは20代から、乳がんは30代後半からかかりやすい特徴があります。男性のがんが60代以降に多いのに対し、女性特有のがんは若いうちからかかりやすいといえます。

この世代の女性は仕事だけでなく、出産や子育てなどの時期でもあり、人生をがんにより大きく左右されるリスクがあります。

●乳がん・子宮がんの年代別罹患率(2021年)



■早期発見できれば治りやすい！ 検診と本人の気づきがカギ

乳がん・子宮がんは、早期に発見できれば治る確率が非常に高く、身体への負担も最低限で済みます。特に乳がん・子宮頸がんの初期は自覚症状がほとんどないため、定期的な検診と早期発見のための行動が重要です。子宮頸がんはHPVワクチンによる予防も可能で、乳がんはブレスト・アウェアネス(乳房の変化に気づく習慣)が推奨されています。変化に気づいた時は検診を待たず、すぐ乳腺外来などの専門医を受診することが大切です。

ブレスト・アウェアネスのコツ／

- ▶入浴中に石けんをつけて撫で洗い
- ▶鏡の前で腕を上げたり腰に当てたりして観察
- ▶月に一度、決まった日にチェック→月経周期による変化(張りや痛みなど)も理解しておく

ここを
チェック！

- ✓しこり
- ✓皮膚のくぼみやひきつれ
- ✓頭からの分泌物(特に血性)
- ✓頭や乳輪のただれ・びらん
- ✓乳房の痛みや腫れ



■イオン健保の「がん検診補助金制度」をご利用ください

乳がん・子宮がん検診は人間ドックのオプションや自治体のがん検診で受けましょう。イオン健康保険組合では、加入者1人あたり5,000円までの実費を補助する「がん検診補助金制度」を実施しています。制度には2つの種類があり、どちらかの制度を年度内1回に限り申請することができます。

*女性のがん以外(胃がん・肺がん・大腸がん)も補助対象です。

がん検診補助

医療機関で受けた下記の検査が対象

- 乳がん——乳房X線検査(マンモグラフィ)・乳房超音波検査
- 子宮がん——頸部細胞診・体部細胞診・HPV検査※・経膈超音波検査

※イオン健保実施のHPV感染リスク検査は補助対象外

自治体検診補助

居住している(住民票のある)自治体の保健所、保健センターやその委嘱を受けた医療機関が実施しているがん検診

*自治体のがん検診は費用の一部が公費で補助されており、低額で受けることができます。詳細はお住まいのホームページ等をご覧ください。



申請方法等、詳細につきましてはイオン健保ホームページをご覧ください。



ご家族にも

がん検診を
お勧めください

日本ではがん検診受診率が低く、病巣の発見が遅れる傾向にあります。がんは誰でもなる病気です。日頃の変化を見逃さず、定期的に自治体検診などを利用し、ご家族と一緒に早期発見に努めましょう。